

開催報告

第 56 回地盤工学会研究発表会の報告

前田工織（株）水環境保全推進部 伊藤 修二

2021 年 7 月 12 日から 15 日まで、第 56 回地盤工学会研究発表会がおこなわれた。新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響を考慮し、オンラインでの開催となった。その中で 7 月 13 日に 4 セッションで地盤補強として補強土の関連の発表が行われた。

第 1 セッションでは、橋台アプローチ部での補強土壁の適用に対し、振動台実験の報告と、ジオグリットの交点強度が補強効果の影響、ジオセルで補強されたアンカープレートの水平載荷試験結果報告、液状化地盤上でのジオグリットの補強効果に対しても報告が行われた。第 2 セッションでは、一体成型ふとん籠とジオストリップの補強効果の確認で土中引抜試験結果の報告、動的遠心模型実験による下部壁面の傾きによる補強土壁の健全評価方法、降雨の浸透水により変状した補強土壁の補修事例の報告が行われた。第 3 セッションでは鉄製補強材と帯状ジオシンセティックの土中引抜抵抗力の違い、両盛土の補強土で盛土幅に違いによる振動台実験の報告、などがあった。最後の第 4 セッションでは、面状補強部材で補強された地盤に対して新たな剛塑性有限要素法を提案、重金属吸収性を有すジオシンセティックスの水理特性の報告があった。その他、帯鋼補強土材、チェーンを用いた補強土壁、アンカーを用いた地盤補強工法の品質管理手法などの報告があった。今回の発表では橋台アプローチ部での補強土壁の適用と、各種、解析方法など、新たな健全度評価方法の内容などの発表があった。

以 上